

「東京修猷会の源流を探る」の内容

- 平成 25 年度の総会担当の昭和 62 年卒組が、「東京修猷会の源流を探る」という企画を立て一年かけて過去の資料や、先輩方へのインタビューなどにより「東京修猷会」の起源について調べたもの
- 「東京修猷会は何を目指すべきか」
「われわれ館友は、この東京修猷会に何を期待し、また貢献すべきなのか」などについても、後半で提言
- 全体で 18 分ほどの映像（平成 25 年 6 月 14 日の総会にて上映）

〔以下、映像の内容〕

- ☆ 東京修猷会が発足したのは 1953 年（昭和 28 年 7 月）
(今年はちょうど 60 周年、人間で言うと還暦)
- ☆ 福岡で「館友会」創設
今から遡ること 121 年
福岡では明治 25 年（1892 年）に
金子堅太郎の提唱により「館友会」が創設
- ☆ 大正 5（1916）年、東京で「帝大修猷会」発足…会長は広田弘毅
1916 年に東京帝国大学の在學生と卒業生により「帝大修猷会」が作られた
- ☆ 大正 10（1921）年、「一橋修猷会」発足
- ☆ しかし、戦前はこれ以上には広がらず
理由は、戦前は、福岡から上京する人数が、今ほど多くなかった
卒業生が合計 1 万人を超えたのは戦後の 1953 年
- ☆ 昭和 20（1945）年 敗戦
これを機に社会は混乱に陥り、この時、館友同士の助け合いが必要となった

☆ 昭和 21 (1946) 年 11 月 3 日、修猷館同窓会の誕生
福岡では 1946 年に、同窓会が結成

☆ 昭和 28 (1953) 年 7 月 7 日

第 1 回 同窓会東京支部総会 [於 東京ステーションホテル]
今から 60 年前に最初の総会が開かれた
一応、この総会の開催をもって、東京修猷会の創立と考えられる

☆ 東京修猷会の「2 本柱」といえば
年 1 回 6 月に開かれる「総会」と、
月 1 回、第 2 木曜日に開かれる「二木会」
二木会は、来年 3 月で第 600 回を迎える

☆ 二木会＝親睦と研鑽を兼ねた東京修猷会独特の活動
二木会のような、相互の親睦と研鑽を兼ねた会合は
他の地方支部はもちろん、福岡の同窓会本部でも開かれていない
他校を見ても、あまり例はないようである

☆ 二木会の起源＝昭和 29 (1954) 年 11 月 [於 丸の内の富士パーラー]
その起源は総会とほぼ同じで、1954 年
場所は、その後変遷を経て、現在は、神田の学士会館

--- 【ここから 先輩方のインタビュー】 -----

◎ 宮川一二先輩 (昭和 12 年卒：東京修猷会 相談役)

二木会とは、勉強会だと思ふ。勉強は損することはない。
当時の二木会は、講演形式ではなかった、お互いの話し合いの場。
二木会の目的は、懇談会だったけれども、あとは、45 歳での新たな人間教育と
いうことだ。45 歳の人達が今後人生で失敗しないように、成功するようにとい
うテーマで行こうということを決めた。

なぜ 45 歳くらいに決めたかというのは、当時、東京に就職して地方に出てまた東京に帰ってくる、というのがあった。だいたい 40 歳くらいで帰ってきて、45 歳くらいで (また地方に) 出て行く。そのタイミングで一度集まってはどうか、ということで 45 歳に決めた。

(幹事担当については) 総会担当というのは、学年単位で決めてはどうかと。我々昭和 12 年卒がトップを始めましょうと、13 年卒、14 年卒と続いて、君たち (昭和 62 年卒) になっっている。

我々の時代は、修猷館に入学するのは2%もいなかった。今の大学院進学より少ない。だから、エリート感覚が非常に強かった。

(今後の東京修猷会に期待することは) 若い力で新しく盛り上げてほしい。今までの考え方にとらわれずに、考え直してやったらどうかと。

◎ 藤吉敏生先輩（昭和26年卒：元東京修猷会会長）

昭和51年、52年に、総会の担当学年になって集まるようになった。当時は東京に70人くらいいて、集まって総会の準備をしていた。これがきっかけとなって、二木会に参加するようになった。

総会幹事になったのが、同期らが集まってくるきっかけに。

二木会は、総会と異なり参加者がそれほど沢山いないので懇談ができる。

修猷館以外の人達から言われるけど、総会もそうだけど、二木会は「スゴイ」とみんなが言う。（二木会は）これだけ交流の場が、600回、50年以上続いているわけですよ。

(東京修猷会における繋がりについては、) 現役の頃はそんなに強く感じなかった。リタイヤして感じることは、やはりそういう、修猷館のタテ・ヨコのつながりが非常に人生に役に立つ。

(若い館友に対するメッセージとしては、) 末永く東京修猷会とつきあってほしい。必ずや、現役でも現役を退いても、人生の役に立つ。やはり、特に、人との和。特に修猷館は、上下がない。先輩達は、厳しいようだけど、意外と上の人は下の人に優しく接する。

若い人には、是非、東京修猷会に足を運んでほしい。

◎ 淵上貫之先輩（昭和26年卒：元東京修猷会幹事長）

参加した頃は規模が小さかった。家族的でアットホームな雰囲気だった。

(東京修猷会に関われることのメリットとしては、) 精神的なものが中心。仕事につながっていくということもあるかもしれないが、それは別として、やはり、自分たちが修猷館で学んだという、その青春のひとときを、ここで(東京修猷会で) 思い返しながらい明日に向かってのエネルギーにしてほしい。

そういう精神的なものが非常に大きいのではないか。

(若い館友へのメッセージとしては) やはり、光輝ある修猷館の伝統、その歴史のバトンを引き継ぐ、立派な人格を形成してほしい。修猷館出身者という自覚の下に！

東京修猷会という、こういう運動体というか、一つの機構、つくられた組織をつなげていくことが大事。

◎ 水野務先輩（昭和 34 年卒：200 周年記念総会担当幹事）

（東京修猷会のあり方としては、）どれだけ多くの人達の力を結集してやっていけるかが重要。そういうネットワークを活用できた人が大きな仕事ができる。そのための人脈、ネットワークが大切だと、そういう資産としてもっておくことが大切。その資産の一つに、この東京修猷会というネットワークがある。

（館友であれば）誰もが活用できるネットワークとして、いかに有効活用していくかをみなさんに考えてほしい。

それを活用しようとする意識を皆さんがしっかり持っていくという事と
そのための環境を東京修猷会がインフラ整備して、館友のみんながそのネットワークをいかに有効に活用するかという事を

みんな考えて意識を高めていけば、東京修猷会の意義が益々大きくなるではないか。

東京修猷会は、そのためのシステムだ（ネットワークを有効活用できるシステムだ）と持って行けるといいのではないか。

---【以上、先輩方のインタビューはここまで】-----

★ 東京修猷会規約をみてみましょう。その第 2 条は
「当支部は修猷館同窓生の親睦を図り、
あわせて後進の誘掖に資することを目的とする。」

ポイントは 2 つ、一つ目は、

★ 目的①：修猷館同窓生の親睦

「同窓生の親睦」を図ることで、これは総会に、多くの館友を集めることで、ある程度まで実現できます。

そのため今年の総会は、より多く親睦と交流の時間がとれるよう、この学年企画を懇親会の中ではなく、あえて今の時間（懇親会の前）に設けました。

このあとは皆さん大いに呑み、かつ喰らって、旧交を温めてください。
そして会の目的のひとつである「同窓生の親睦」を深めてください。

なお、ここでとくに若い館友の皆さんにお願いです。皆さんにとっては、総会の会費は決して安くないかもしれませんが、ですが、払った会費のモトは、たくさん食べるのではなく、多くの先輩とお話をすることで、回収してください。ご飯はいつでも食べられますが、総会の出会いは一期一会です。
出会いを大切にしてください。

東京修猷会の目的は、もう一つあります。

★ 目的②：後進の誘掖

「誘掖」とは「導き援ける」という意味です。

規約に、この言葉を入れた先輩方は、どのようなお考えだったのでしょうか。推測になりますが、東京修猷会を、単に年に一度集まり、ご馳走を食べる会にとどめることなく、先輩と後輩が「継続的に」接点を持ち、

先輩が後輩を「導き援ける」ことを想定していたのではないのでしょうか。

「後進の誘掖→二木会の重視」

月に1度の二木会が、より多くの館友の、出会いと交流の場になること、先輩と後輩の架け橋になることを期待していたと考えます。

(我々、昭和62年卒(無二の会)からの提言)

こうしたことから、我が62年卒(無二の会)は、皆さんに、僭越ながら2つほど「提言」をしたいと思います。

★ 提言①：「後輩」のみなさんへ

本日の総会での出会いを大切にしてください。

また明日以降も、先輩方を頼ってください。

そのためには、年に1回、ご飯を食べに来るだけでは不十分です。先輩方に援けてもらいたければ、毎月開かれる二木会にも積極的に顔を出し、先輩とのつながりを作りあげてください。

それはきっと、皆さんにとって貴重な「絆」になるはずです。

このかけがえのない「つながり」、「絆」にもっと貪欲になってください。

★ 提言②：「先輩」の皆さんへ

ぜひとも後輩を援けてください。いまの日本は、歴史の転換点にあります。後輩の我々にとって、先輩方の経験と知恵に基づく、助言と支援が必要です。

★ 我々62年卒（無二の会）より

修猷館を卒業した後は、大学、そして社会へと、みんな活躍の場を移します。その社会においては、個人の力だけで、物事を成し遂げることは、決してできません。

大きな才能ほど、その開花には、多くの人の^{たす}援けが必要となります。

東京修猷会は、そのことを、館友みんなで共有する場であると考えます。年代を超えて助け合うことの大切さを知り、同窓会が世代間の架け橋であることを、体感させる場であると考えます。

我々、昭和62年卒、無二の会は、今後一年間、二木会の運営にも関わることになります。東京修猷会の原点を忘れず、同窓生の親睦と、後進の^{ゆうえき}誘掖のお役に立てるよう、努力して参る所存です。

館友の皆さまも、これから一年間、積極的な会合（総会、二木会など）へのご参加、ならびに運営へのご協力を、宜しくお願いいたします。

東京修猷会の源流を探る

(<http://youtu.be/x3IPbbh29U0>)

平成25年度東京修猷会総会(6月14日、ホテルオークラ東京)で上映したものです。ぜひ、ご覧ください。



鈴木 均 (昭和62年卒)

080-5004-0142

mashimayuhisa@ybb.ne.jp

